

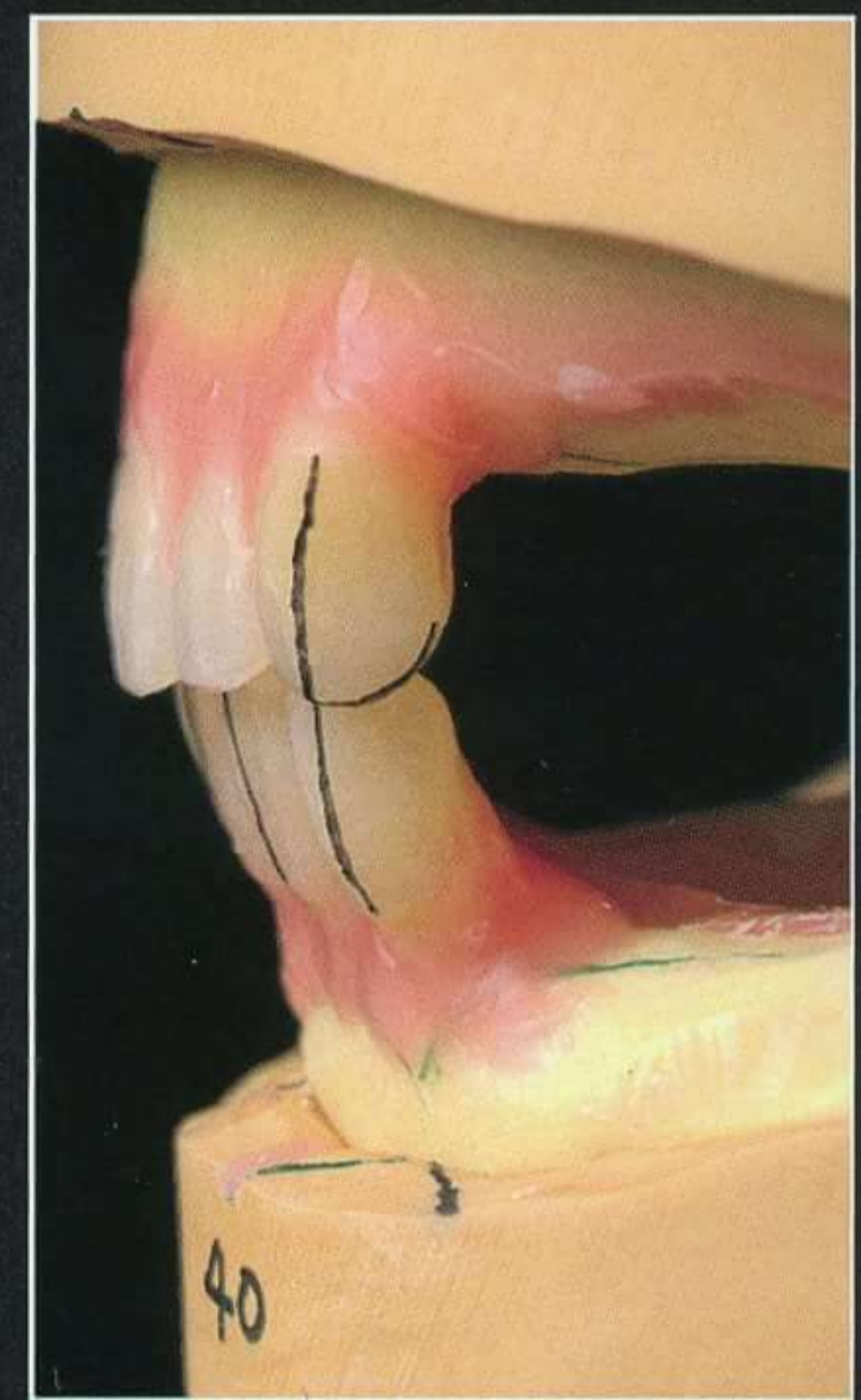
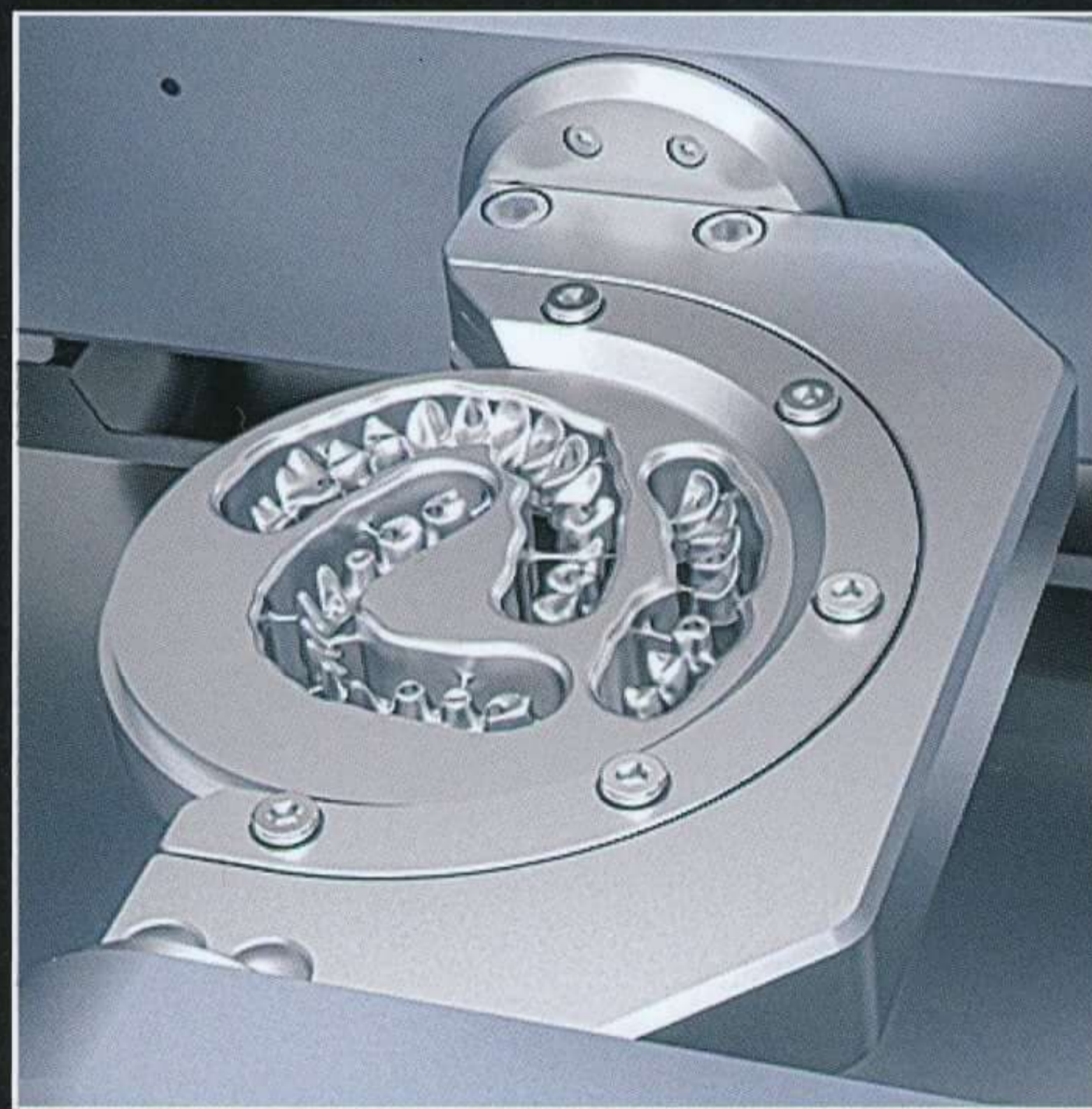
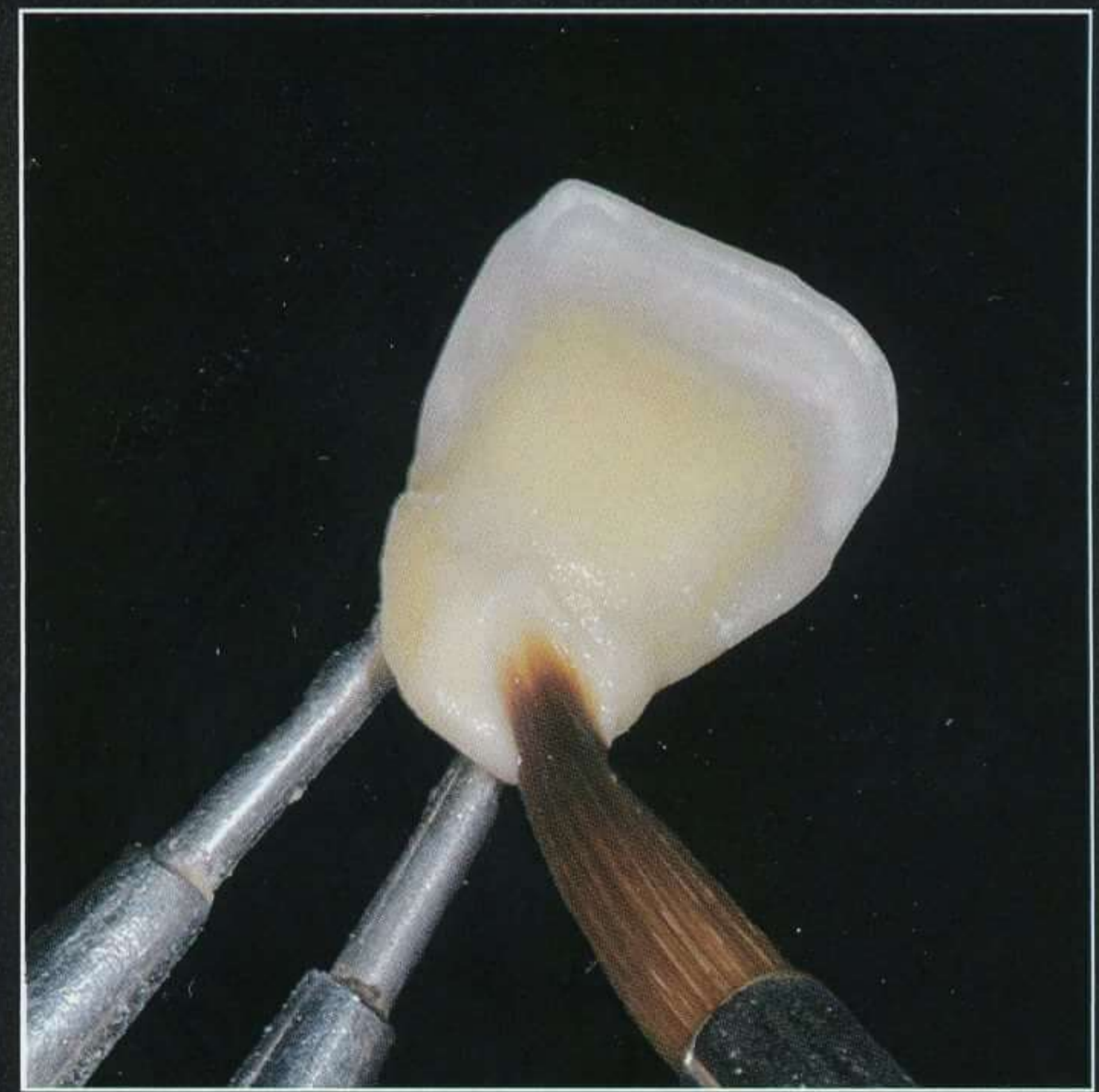
2

2025  
Volume 50  
www.quint-j.co.jp

# QDT

Quintessence of Dental Technology

歯科医師と歯科技工士がともに読むデジタルエイジの補綴専門誌



### Feature article #1

#### デジタル技術を駆使した検査・診断からのトータル技工

前編：ジルコニアボーンアンカードブリッジ製作のための  
シェードテイキングおよび歯肉色再現テクニック

### Feature article #2

#### 歯科における「色調構築」の再考

後編：口腔内でマッチングさせるためのさまざまな要素



今回は、前歯部少部矯正矯正術により、従来の矯正と異なるポイントを確認させていた。やはり歯肉部矯正矯正術の重要性は高く、とくに歯肉部の状態を改善する事は、デジタルカメラを用いるだけでなく単純なブラッシングなどでのケアは効果的でも必要であると考えている。それとジルコニアフレームを用いる場合においても同様であり、歯肉は必ずダブルスキャンによるジルコニアフレーム製作を依頼している。この際においても歯肉部などの情報は重要であるが、それを見取するための高品質なデータは必要であり、これらは品質を上げなければならない。

また、最近ではシェードガイド撮影が行われるが、および完成までの口腔内トライの時間を短縮させていたのは、製作する歯科技工士が写真を撮る場合と、歯科医師から写真を撮る場合があり、更に一定条件での情報を基に製作できるものではないからである。制作者が患者の歯を撮影するうえで、歯科医師と歯科技工士のコミュニケーションの重要性が重要と考える。

最後に、日本からご依頼いただいた患者様を確保していただいたのは、歯肉部矯正術の重要性、歯肉部矯正術、小林一夫先生（スマイルアップアカデミー）の指導、時間 敬先生（歯肉部矯正術）、ジルコニアフレーム製作を依頼していたという点から、スマイルアップアカデミーの重要性を上げます。



**滝澤 崇** Takashi Takizawa, RDT

- 1991年 神奈川歯科大学附属歯科技工専門学校卒業
- 1996年 国際デンタルアカデミーラボテックスクール修了
- 1996年 国際デンタルアカデミーラボテックスクール入社
- 1997年 バーレン勤務
- 2011年 Oral design 彩雲勤務



# MASTERPIECE

審美歯科治療におけるセラミッククラウンによる色調や形態の再現は、歯科材料や機械加工ツールが普及した現在でも非常に難関領域である。むしろ、選択可能な歯冠材料や製作方法が増える時代では、それらの材料の特性を理解し、多くの専門的な知識を適用することが必要となる。

しかし、材料や製作方法が変化しても、セラミックワークにおける審美再現法や形態再現などの基本的な考え方は不変である。そして、少人数制診療で心掛を込めた治療は毎週同じ量産工程で行うことなく、歯冠形態も口腔内に適切な調和が得られるように設計していかなくてはならない。この際、チェアサイドで撮影された写真が製陶技工士にとって大切な情報源となっており、その写真からどのようか情報を読み取るかが重要なポイントとなっている。そこで今回は、筆者が写真からどのような情報を得て、それらをもとめようか確認して製作したのかを解説したい。

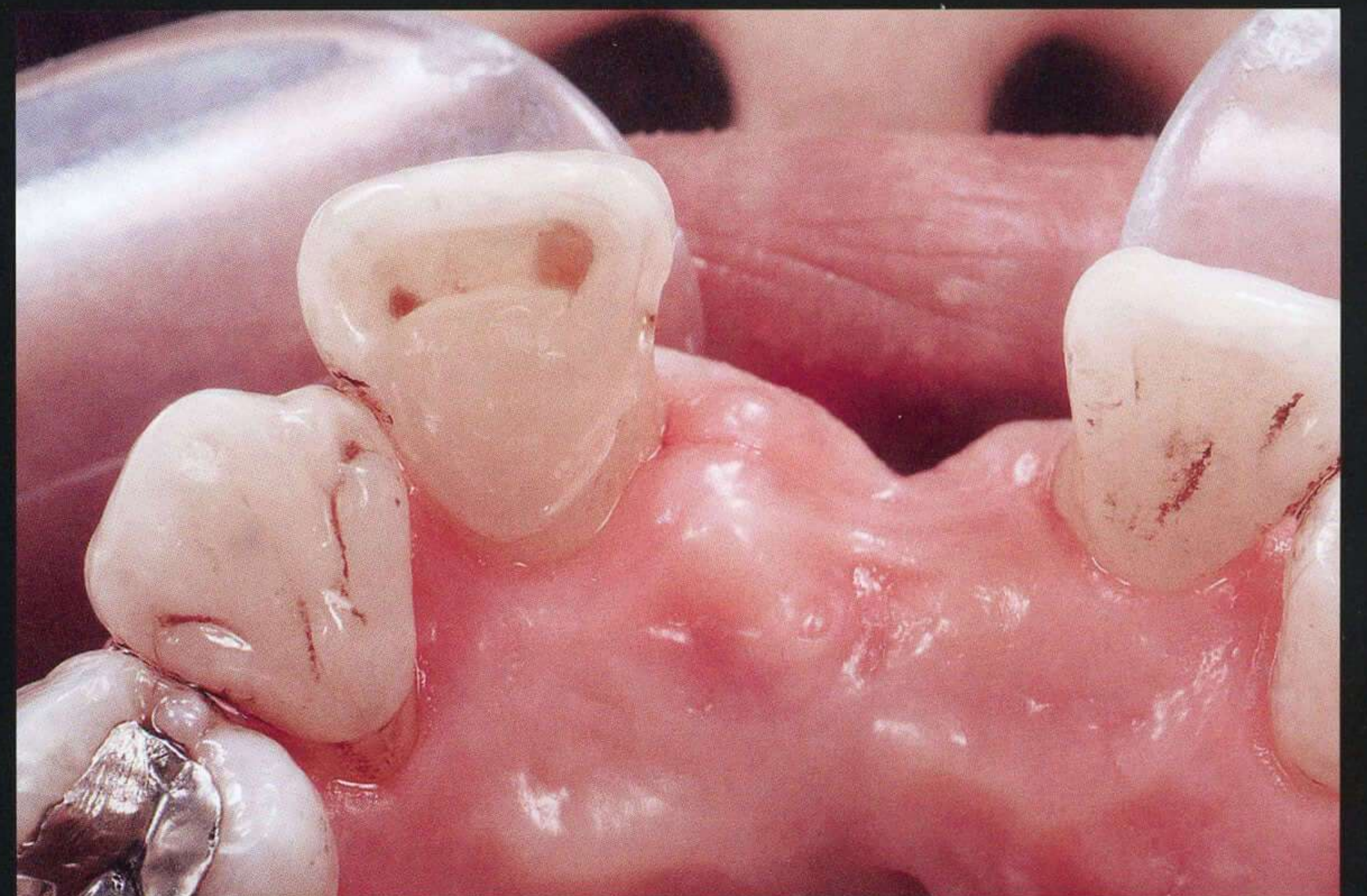
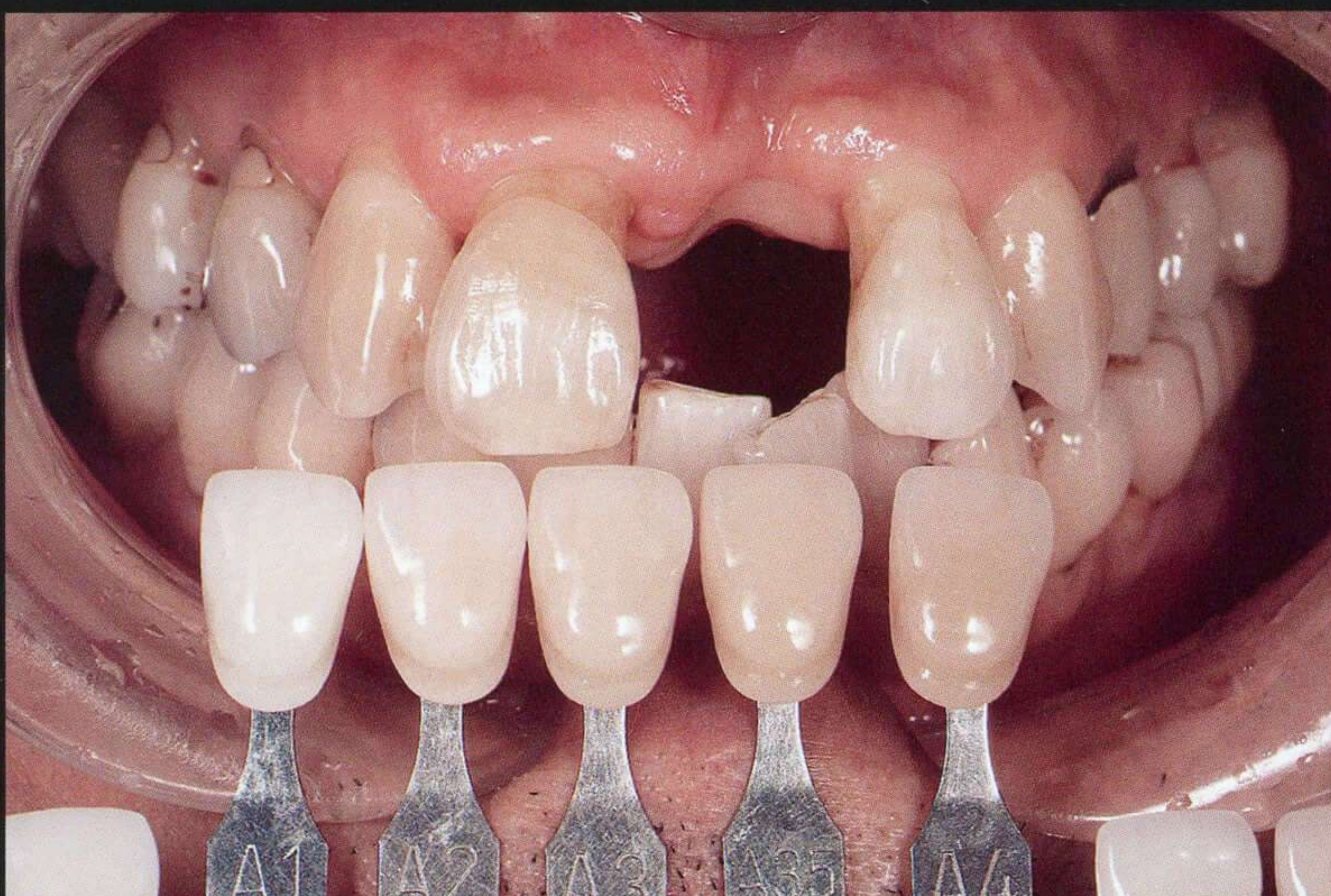
前歯部少数歯補綴治療における調和を症例から考える

滝澤 崇

oral design 彩雲

東京都世田谷区上北沢4-15-2 KTスクエアビル3F

Case 1



症例提供：小林一久先生(スマイレアデンタルクリニック)

補綴部位：上前歯(前歯) (シングルリテーナー)

患者性別：50代男性

主訴：審美・咬合不良の改善

使用材料：PRG-TTA (Gbrondam, トーヨーデンタル), Creation ZI-DT (Creation With Geler, 日本歯科材料)

制作過程：シェード写真を歯科医師からいただき、色合わせにて口腔内(ライティング)環境に調整された。

クラウンやブリッジと比較して、シングルリテーナーは咬合面からの咬合面の影響やクリアランスの制限がないため咬合面の自由度は高いが、磨耗した咬合面から自然に醸成した自然形を表現するために形態には咬合接触が必要である。咬合時には咬合接触と咬合面近心の形態から、シングルリテーナーの咬合面をポイントコンタクトに見えぬような形態にしなくてはならず、咬合面強度との兼ね合いが難しい。

咬合は、咬合面の傾斜が急ぐ、咬合中央部にかけて傾斜に傾斜が急くなり咬合面が増す。そして、咬合部近では咬合面が高い不透明なアグメントが完成される。咬合面近の咬合面において、咬合面の傾斜が急いエリアは下地にオーバーラスデンションを用いて咬合面を上げ、中央部の傾斜が急いエリアは咬合面にカットバックを行ったうえでイソエッジング (Creation In Novb Mod IPNHL Creation With Geler, 日本歯科材料) による咬合面近の咬合面を削削した。また、咬合面近の不透明なエリアは両材料 (Creation ZI-DT Mod) を用いて咬合面近を削削した。

Case 5



症例提供：小林一久先生

補綴部位：下顎前歯の矯正

患者性別：60代女性

主訴：歯列不正の改善

使用材料：PRIMEUM、Generation 2-VIT

補綴概要：シェード取得を歯科医師が担当して製作。歯の色により口唇内トライ1区域に完成させた。

歯科医師と患者が口唇内面に見られるクラックラインを再現して欲しいとの要望を受けた。

下顎前歯は歯根が浅いため比較的準備の労力は少なく、色調も上顎前歯よりは高むけやすい。しかし、歯が小さく、牙齦線と歯肉も厚みがあり、少量の歯材での効果的な色調再現が求められる。本症例は歯根が浅く、下顎前歯歯肉の過剰性がありながらVITAシェードガイドより高い調色を持っている。調色のある歯根を再現するのは困難であったが、ネットトランスジエーションを準備することで対応した。また、下顎前歯は唇面からだけでなく切端方向からの色調も再現しなければならないので、切端付近の調色は難しくなる。

患者側のレジンコアは歯冠ファイバーコアで強く透明感のある色調なので、その影響を受けないように透明性の高いガラスイオンレジンを使用し、ファイバーコアの色調と一致させた。